

「生活保護基準は多くの人に影響」

東京・足立 老齡加算復活求め宣伝

行いました。

老齡加算の復活を求めてたかかっている生存権裁判弁護団の一人、黒岩哲彦弁護士は「生活保護基準は、就学援助の利用基準になるなど多くの人の生活に影響するものだ」と指摘。「高齢の原告が全国で、25条で保障される『健康で文化的な生活』を実現しようと奮闘している」と紹介しました。

国民の生活水準を引き上げるためにも生活保護の老齡加算復活を。生存権裁判を支援する全国連絡会（井上英夫会長）は25日、東京都足立区の北千住駅前で署名・宣伝行動を

同会の前田美津恵事務局長は「安倍政権は、『自立、自助』と叫び、日本の貧しい社会保障をさらに悪化させるために、生活保護を突破口としようとしている」と批判しまし



老齡加算の復活を求めて宣伝・署名行動をする生存権裁判を支援する全国連絡会の人たち＝25日、東京都足立区

用させ、老齡加算を復活させることだ」と強調しました。

飲食業で深夜の仕事をしている男性（30）
「東京都足立区」は「東日本大震災の被災者に対する募金集めなどの活動をしていませ。生活保護は大事な制度。生活保護基準を引き下げない活動とも団結していきたい」と話し、署名に応じました。

同会副会長を務める全労連の高橋信一副議長は「年収112万円以下で暮らす人が16%。200万円以下は昨年、1000万人を超えた。いま、求められているのは、必要とする人に生活保護を利